



江別ユネスコ協会事務局だより 2023年7月21日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074 江別市高砂町 24-6 教育委員会生涯学習課内(担当:山崎☎381-1069)

「北海道ユネスコ大会 in 千歳」参加申込は9月11日までに！

本年度の全道大会は、10月21日(土)に、「ANA クラウンプラザホテル千歳」において開催されます。受付開始は13:00、会議終了は17:20の予定です。17:30より同じ会場で「交流会」が開かれます。翌22日(日)には「エクスカージョン」が実施されています。

7月15日開催の道ユネスコ連協の常任理事会で、プログラムの骨格が決定されたので、内容を別紙の通りお知らせします。会員は所属ユネスコ協会を通じて9月11日(月)までに参加申込をください。大会参加料は3,000円、交流会費は6,000円で、参加申込の際に江別ユネスコ協会の事務局に先払いしてください。エクスカージョンは先着40名の予定で、参加料は、会員は無料の見込みです。

「ハリオアマツバメの謎の生態」森さやか先生の講演会ひろく

当協会の本年度定期総会は6月20日(火)に野幌公民館において予定通り開催されました。ご出席の皆様、有難うございました。総会終了後、酪農学園大の森さやか准教授による「世界最速級で飛ぶハリオアマツバメの謎の生態に迫る」と題する講演会を開催し、生物多様性保護の問題点を実態に即した学習ができて、出席者には大変好評でした。この鳥の個体数が激減していること、巣を作る樹洞(木の穴)が減少して木材で巣箱を作ると大きな箱が必要になること、地面の餌は食べられず空中で飛びながら虫類を捕食すること等々、意外な習性に研究者のご苦労を実感した講演会でした。

世界の記憶(ユネスコ記憶遺産)に「円珍関係文書」が登録！

本年5月24日、ユネスコの「世界の記憶」に関する国際諮問委員会が、「世界の記憶」に新たに64件の遺産を登録しました。日本からは「智証大師：円珍関係文書典籍—日本・中国の文化交流史—」が登録されました。文部科学省の発表によると、これは、中国：唐に渡り、日本に密教の教えをもたらした智証大師：円珍に関連する史料群で、園城寺(三井寺・滋賀県)と東京国立博物館が申請していたものです。ユネスコの「世界の記憶」は、失われつつある世界の貴重な記録遺産を保存することを目的とした事業で、これまで日本から「慶長遣欧使節関係資料」や「御堂関白記」「東寺百合文書」などが登録され、これが8件目です。

世界遺産、次の候補は「彦根城」か「飛鳥・藤原の宮都」か？

現在、日本から推薦している世界遺産候補は「佐渡島の金山」で、2024年の審議を受けますが、次の推薦候補はどこでしょうか。文化庁の文化審議会は、暫定リストに記載されている「彦根城」と「飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群」を政府の候補として優先するようです。近年、諮問機関「国際記念物遺跡会議」「国際自然保護連合」の勧告と世界遺産委員会の決議が一致しないことが多く、その間の評価のズレが問題になって、2021年にプレリミナリー・アセスメント(事前調査)の導入を決めました。これは各国が推薦書を提出する前に諮問機関に評価を依頼し、準備段階からアドバイスを受けることにし、2027年から義務化するものです。「彦根城」と「飛鳥・藤原」のどちらが先になるかには、この2027年が微妙に関係し、推薦書原案の作成を急ぐと評価が下がる可能性があると言われています。

富士吉田市の「ユネスコ全国大会」の申込期間が延長されました

今年の全国大会は9月9日(土)に山梨県富士吉田市で開催されますが、会員の参加申込期限は6月30日でしたが、7月31日(月)17時まで延長されました。参加希望者がおられましたら、5月に配布した「開催概要」に従って、運営担当の旅行業者「株式会社YBS・T&L」に直接お尋ねください。

